

I. パレスティナ問題はどのようになっているのか？

NHK 特集「憎しみの連鎖はどこまで続くのか～パレスティナとイスラエル～」(02.3.31放送)から(その1)

(1) プロローグ

パレスティナ側の自爆テロに対し、イスラエルの[1]首相は報復をつよめ、イスラエルとパレスティナの間では「憎しみの連鎖」つづいている。

しかしその中でも話し合いによる和平を求める人々もいる

(2) ガザ地区のラファにおいて

今年1月10日、[2]の[3]地区南部のラファにイスラエル軍が侵攻し、住民の住宅を破壊した。

1967年[4]戦争に勝利したイスラエルは、[5]人が多く住んでいたパレスティナ西部の[6]地区、東部の[7]地区、および聖地[8]を占領した。

↓

1993年イスラエルと[9] (パレスティナ解放機構)との合意に基づいて、ガザ地区の[10] %、ヨルダン川西岸地区の[11] %において[12]の暫定自治政府を樹立することが決まった。

しかし、イスラエル側はこの地域すべてを返すことは拒否している。

↓

この一年、イスラエル側は[13]をもとめて、暫定自治政府の支配地域への侵攻を繰り返している

ラファに人々の暮らし

テント暮らしをするカッサースさん_14 _____

子どもたちの心の中にも_15 _____という気持ちが広がる。

(3) 西エルサレムのカホ通りにて

この地域はパレスティナ人もよく買い物に来る繁華街だが、この一年で[16]回の[17]が発生、40人以上が犠牲となっている。

1月27日にも発生、2人が死に100人以上が負傷した。

警察によるパレスティナ人への容赦ない取り調べでパレスティナ人は買い物に来られなくなった。

コーヘンさんのブティックのようす

(4) 強硬路線のシャロン首相と、話し合いによる解決を求める人たち

イスラエルの[18]首相は19_____をめざしている。

こうした姿勢は[20]の[21]以来、いっそう強まってきた。

その背景には、世界が[22]の動きを強めたことで、[23]と戦っている(と彼は信じている!!) 自分たちの行動を支持するとの思いがある。

これに対して[24]党で前[25]としてパレスティナ側との[26]にあっていたベンアミ氏はこうしたシャロンの考えを批判し、27_____と主張する。

(5) 和平交渉の経過

和平交渉は[28]の仲介ですすめられた。

2000年7月キャンプデーヴィッドの会談では2つの点で対立し、合意を得られなかった。

1つは、占領地における[29]の問題である。イスラエル側がヨルダン川西岸の88%をパレスティナ側に返還し、12%を入植者のために残す案をだした

ユダヤ人入植地…イスラエルは占領した土地を確保するために、新たな移民を中心に占領地に入植させ、政府の援助のもとに農園などを作っていた。こうした農園がヨルダン川西岸地区に広範に形成されている。その数は[30]近くにのぼり、入植者数は20万人に及ぶ。彼らは当然、イスラエルに残ることを望み、和平交渉に反発をもつことが多い。彼らによるパレスティナ人襲撃事件も発生した。

2つ目は[31]の問題である。イスラエル側はこの地区の分割は認めたが、旧市街とくに[32]の帰属においては両者の妥協は困難であった。

この丘はかつて[33]があった場所とされる一方、イスラム教の預言者[34]が天に昇ったとされるイスラム教の聖地でもあるからだ。

イスラエルとパレスティナの間の対立が一挙に強まったのが、2000年9月のことである。このときイスラエル強硬派の[35]党首であった[36]が[37]にはいり、和平派の譲歩を許さないと語った。

こうした行為に怒ったパレスティナ人とイスラエル側の警察との間の衝突が発生、治安が悪化した。

こうした対立の激化を見た国民の中に、和平実現への疑問から[38]がたかまり、[39]への支持が増えたのである。